

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190600011		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐南		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町徳田7丁目73番地の1		
自己評価作成日	平成26年 7月30日	評価結果市町村受理日	平成26年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JigyosvCd=2190600011-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&amp;JigyosvCd=2190600011-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 8月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1階のご入居者様は、比較的に意思疎通が可能な方が多い為、飲み物一つでも毎回飲みたい物をお聞きしたり、食事の硬さ濃さを確認しながら、要望に合わせた対応が出来ております。又、生活の中でお困りな事、やりたい事をアセスメントし、本人様の意思を尊重し希望に沿った対応が来ております。  
環境の面でも共有スペースの場で個々にくつろげる場所を設けたり、転倒へのリスクを軽減する為に同線を多く取り入れる工夫を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は、利用者の思いを捉えた「その人らしい」個別支援の実践を柱とし、常に利用者の気持ちに寄り添い、利用者の立場に立つ支援となるよう唱え取り組んでいる。  
今までの習慣や暮らしぶりを把握し、食事は個別の嗜好を考慮し、米は硬い、柔らかいの2種類を準備している。苦手な料理は別のものに替え、食事は利用者ごとに調整し、心細やかな思いやりの食事を提供している。中には、自分の好みの調味料や漬物を用意して食事を楽しむ利用者もいる。  
職員全員が車椅子の生活を実際に体験し、車椅子利用者の気持ちを深く理解の上で支援にあっている。誘導時や椅子から立ち上がろうとする利用者の思いを読み取り、利用者の気持ちに沿った対応に努めている。管理者の熱い思いは、着実に職員に浸透し実践に反映しつつある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼と夕礼の場で理念の唱和をし、共有と理解に努めている。	法人理念をホーム内に掲示し、ホーム独自の理念とともに、毎期ごとのホーム目標を策定している。	理念に基づきホーム目標を策定している。しかしながら、職員の目標達成の意識は統一されていない。理念を実践に反映するため、職員の十分な話し合いを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月ボランティアに来て頂いたり、行事を開催して地域の方に呼びかけを行い交流している。又、個々で馴染みの場所等に定期的に出出している。	自治会の回覧板を利用してホーム行事を案内し、住人の参加を得ている。中学校の体験学習を受入れ、可愛い生徒の訪問が利用者の心を和ませている。地域から野菜の差入れを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、社会福祉協議会主催の家族介護教室にて認知症の方の説明・講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方と御家族様にホームの近況報告、行事内容や御利用者様への取り組み・報告を行い、意見を頂く事で向上に努めている。	利用者家族、行政、地域の参加を得て、ホームの運営状況や事故報告、外部評価結果などをオープンに報告し、意見交換のうえ実践に反映する機会としている。	参加家族が限られている。多くの家族の参加に加え、主役である利用者の参加も望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へは随時事故・急変報告書を提出している。また、毎月の行事や御利用者様の状態を伝えている。	頻回に町役場を訪問し、入居情報、事故報告、生活保護受給者の受入れなど、多岐にわたる意見交換を行って良好な関係を築いている。行政からは、制度変更や研修案内などの有効な情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度、マニュアルに沿って研修を行っている。普段の業務の中で、声のかけ方からも拘束に当たる事は随時確認を行っている。	定期的に研修を実施し、職員は身体拘束についての正しい知識を有している。玄関は施錠せず、帰宅願望のある利用者は職員と周辺を散歩し、納得のうえホームに帰るよう対応している。職員の拘束にあたる発言や行動は、職員が互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度、マニュアルに沿って研修を行っている。普段の業務で、虐待になり得る行為は、随時確認し話し合う事で、虐待への理解と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度は、資料を基に研修を行い、理解に勤めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約と併用して、重要事項の書類を元に、説明を行う事で、事業所の取り組み、仕組み等丁寧に説明する事で、御家族様の理解と同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、運営推進会議や面会時にお話をさせて頂いたり、年に1度アンケートを取る等して改善に努めている。	家族の訪問時は、管理者の対応を基本とし、管理者を中心に家族の意見を聴き取るよう努めている。「外出、入浴回数を増やして欲しい」との家族の要望は、職員で検討して要望に答えている。	管理者は家族の訪問の際、サービス向上の一環として全職員が家族に対応できる体制の構築を課題としており、その実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議や各ユニットでカンファレンスを行い、要望や提案や意見等話し合い改善に努めている。	定例会議の機会に、職員の意見を聞き取っている。意欲の低下した利用者に、職員の提案で、「利用者の好きな歌手の写真を掲示して音楽を流す」ことにより、利用者が元気を取り戻して意欲を回復した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上、予定時間に休めない事はある為、こまめに休憩を取るようしたり、感謝の言葉をかける事を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには半年間研修期間を設け、自己評価をしてもらう事で、自分の力量の把握、向上心を持てる様に取り組んでいる。また、不足部分の指導を行い、働きながら学んでいけるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、代表者の会議を行い、意見交換や相談する事で互いに情報共有が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近の出来事をこちらから聞く事で、業務中に言えない事、不安に思っている事に耳を傾け、関係性に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、遠方であり面会に来る事ができない御家族様全て、電話やお便り等で要望を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様からは、毎日の介護記録を参考に、その時に必要としている事が何かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	異性の利用者様へのシップ塗布・入浴・衣替え介助、扉をノックして入る等、御利用者様の要望・羞恥心等に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて、御利用者様の近況報告、今後の予定等を行い、情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に1度馴染みの場所や人との交流を持つ機会を作り、支援している。	知人宅に遊びに出向き、知人がホームを訪ねる相互の仲良しの関係を支援している。利用者が自ら美容院の予約をし、往路はホーム、復路は美容院の関係者が寄り添う、優しい馴染みの支援の継続である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日2回のお茶の時間を利用し、利用者様同士の関わり(会話)の時間を設けられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や、行事の案内を継続しており、関係性を保てるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1ヶ月間の予定を立て、更に1日の行動予定を立てる事で、個々の希望に対して、職員全員が把握し、混乱や不安がを軽減できるよう努めている。	生活歴、嗜好、意向などをホーム指定の用紙に記し、利用者本位の介護となるようアセスメントを実施している。利用者個々の今までの暮らしや性格を理解し、会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。	指定様式「気づいたことケアプランのヒント」に、利用者の思いや意向を把握して記すこととしている。しかし、職員の記録の精度に温度差があり、全職員の記録の精度向上を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、定期的な生活リズムを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日会話や介護記録からその人の1日の流れを知ろうとしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや日々の介護記録、毎日の生活の様子、普段の会話の内容を話し合うことで、現状に即した計画を作成している。	3ヶ月を目処に、利用者、家族、医師の意見を確認し、職員の話し合いを実施してケアプランを見直している。「その人らしい」個別計画として、馬好きの利用者の希望を叶え、競馬場見学を実現している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノート等で、その日出勤していないスタッフも分かるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望が出たら話し合い、随時担当者を決め対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時、消防訓練など、災害時には協力していただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診があり体の状態を報告し、主治医の指示に臨機応変に対応している。かかりつけ医に関してはご家族様、本人様の要望に応じて納得して頂ける場所に変更している。	利用者、家族の希望医をかかりつけ医として利用している。協力医は月2回の往診、看護師は週1回の訪問を実施し、24時間体制を敷いている。外来受診は必要に応じホームの支援を行い、結果は家族に漏れなく報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護があり、定期的に御利用者様の現状を報告、相談、処置をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医師の説明を聞き、必要に応じて介護計画の変更を行い、面会時の支援もこまめに行なう事で、関係を作るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様、主治医、看護師とホームで話し合いの場を設け、それぞれの方針を話し合い、最善のケアが行えるよう努めている。	入居時に、利用者、家族にホームの出来ることを説明している。ホームは利用者、家族、医師と話し合い、希望のある場合はギリギリまで支援を行うこととしている。医療の伴う段階においては、相談のうえ適切な施設への移動を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策マニュアルに沿ってホーム内カンファレンスを実施し、全員が落ち着いて対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実践しており、消防署の方の協力の下、避難の指導を受け取り組んでいる。日中想定と夜間想定で各1回づつ行っている。	夜間想定を含み、消防署の指導の下に、消火、通報、救命、避難訓練を実施している。管理者は火災に限らず、水害、地震などを想定し、地域と相互に協力する体制を課題と考えている。	ホームの職員のみでの対応には限界がある。有事に地域の協力は不可欠であり、運営推進会議に諮るなど、地域との協力する体制づくりを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格を見極め、子供扱いや友達扱いのような言葉かけをしすぎないように敬語で対応する事を心掛けている。	利用者の立場に立つ接遇を心がけ、人生の先輩として尊敬の念を持って丁寧に接している。入浴、トイレの介護は視線に注意し、トイレは必要の無い場合はドアの外で見守り、異性の苦手な利用者は同性介助としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご飯や服の洗濯、入浴等のこだわりに沿って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・入浴・買い物全てにおいて臨機応変に希望に沿って対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や柄を重視し、同じ服装が続かないように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを尊重し、調理指示書に基づいて、栄養バランスを考慮した上で、個々の味付けや固さ等の調整を行っている。	法人栄養士のメニューを基に、調理専門職の手作りの料理を提供している。嗜好を把握し、苦手な料理は個別に変更している。家族、医師の許可を取って希望の調味料や梅干を置き、楽しみの食事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理に沿って食事を作ることで、栄養が偏らないよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の思いを尊重し、状態を把握する事で、時間帯に誤差は生じるが、本人の意思を尊重したケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員尿意がある為、歩行時・立ち上がり時の転倒に気を付けながら、トイレにて排泄して頂いている。	現在、比較的介護度は低く、意思表示のできる利用者も多い。日中のオムツ使用者はなく、リハビリパンツ、布パンツを使用している。職員は利用者の仕草を察知して適切な誘導を行い、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としているラジオ体操、廊下の歩行訓練等でお腹の動きをよくし、水分不足の方にはゼリー等で対応する等の努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせ、職員や時間を考慮して対応している。又、馴染みのシャンプーリンスを使用しており、個々に沿った支援を行っている。	週2回入浴を基本とし、希望のある場合は柔軟に対応している。自分のシャンプーやリンスを準備する利用者もいる。入浴剤を使って、入浴が利用者のくつろぎの時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の入浴や足浴を行う事で安心して睡眠をとって頂けるように取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を随時チェックし、用法の理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある役割を行って頂く事で、強制をしないで、自分のペースで行っていただくように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1度の外出日を設け、希望者が同じ回数の外出が出来るよう計画を立てている。	利用者の希望に応え、日常的にホーム周辺を散歩している。週1回の外出を目標にしており、喫茶、外食、買い物などに力を注いでいる。弁当を持参する花見には家族の参加もあり、利用者の喜びの時間としている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員にはお金の管理の重要性を教え、ご利用者様の希望に応じてお金の所持、使用を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方にはやり取りできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に好きな人物や写真・季節の花などを取り入れている。また、場所の把握が出来るように各場所の目印を取り付ける事で、自立支援を目指している。	広いスペースのリビングや廊下は明るく、利用者が安心して移動できるよう動線を確保している。壁には、書画の師範である利用者の作品や短歌、絵を個展のように展示している。回想コーナーを設け、懐かしい玩具などを楽しく飾り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を変更する事で、同じ空間の中でも、苦痛に感じないように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、馴染みのタンスや好みの道具、作品を飾る事で、不安の軽減が出来る環境作りに努めている。	使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫、仏壇、位牌、遺影、化粧品、趣味の品々の他に、家族の了解の下で利用者が買ったカップ焼きそば、バナナ、梅干、調味料等が揃い、居室は利用者の生活の場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身のタイミングで動ける事、転倒のリスクを軽減できるよう、同線が多くある環境作りを心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190600011		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐南		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町徳田7丁目73番地の1		
自己評価作成日	平成26年 7月30日	評価結果市町村受理日	平成26年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190600011-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190600011-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成26年 8月21日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2階のご入居者様は、身体的に自立度が高い為、洗濯干し、洗濯たみ、食器拭き水やり等日常での役割を協力して行って頂けるようにしております。又、お部屋に1人で籠ってしまう事が多い為、ご利用者様同士で話が出来る空間を設けたり、個々にお好きな物を聞きだし、掲示する等環境の面で力を入れております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼と夕礼の場で理念の唱和をし、共有と理解に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月ボランティアに来て頂いたり、行事を開催して地域の方に呼びかけを行い交流している。又、個々で馴染みの場所等に定期的に外出している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、社会福祉協議会主催の家族介護教室にて認知症の方の説明・講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方と御家族様にホームの近況報告、行事内容や御利用者様への取り組み・報告を行い、意見を頂く事で向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へは随時事故・急変報告書を提出している。また、毎月の行事や御利用者様の状態を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度、マニュアルに沿って研修を行っている。普段の業務の中で、声のかけ方からも拘束に当たる事は随時確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度、マニュアルに沿って研修を行っている。普段の業務で、虐待になり得る行為は、随時確認し話し合う事で、虐待への理解と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度は、資料を基に研修を行い、理解に勤めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約と併用して、重要事項の書類を元に、説明を行う事で、事業所の取り組み、仕組み等丁寧に説明する事で、御家族様の理解と同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、運営推進会議や面会時にお話をさせて頂いたり、年に1度アンケートを取る等して改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議や各ユニットでカンファレンスを行い、要望や提案や意見等話し合い改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上、予定時間に休めない事はある為、こまめに休憩を取るようしたり、感謝の言葉をかける事を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには半年間研修期間を設け、自己評価をしてもらう事で、自分の力量の把握、向上心を持てる様に取り組んでいる。また、不足部分の指導を行い、働きながら学んでいけるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、代表者の会議を行い、意見交換や相談する事で互いに情報共有が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最近の出来事をこちらから聞く事で、業務中に言えない事、不安に思っている事に耳を傾け、関係性に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、遠方であり面会に来る事ができない御家族様全て、電話やお便り等で要望を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様からは、毎日の介護記録を参考に、その時に必要としている事が何かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	異性の利用者様へのシップ塗布・入浴・衣替え介助、扉をノックして入る等、御利用者様の要望・羞恥心等に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて、御利用者様の近況報告、今後の予定等を行い、情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に1度馴染みの場所や人との交流を持てる機会を作り、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日2回のお茶の時間を利用し、利用者様同士の関わり(会話)の時間を設けられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や、行事の案内を継続しており、関係性を保てるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1ヶ月間の予定を立て、更に1日の行動予定を立てる事で、個々の希望に対して、職員全員が把握し、混乱や不安が軽減できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、定期的な生活リズムを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日会話や介護記録からその人の1日の流れを知ろうとしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや日々の介護記録、毎日の生活の様子、普段の会話の内容を話し合うことで、現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノート等で、その日出勤していないスタッフも分かるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望が出たら話し合い、随時担当者を決め対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時、消防訓練など、災害時には協力していただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診があり体の状態を報告し、主治医の指示に臨機応変に対応している。かかりつけ医に関してはご家族様、本人様の要望に応じて納得して頂ける場所に変更している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護があり、定期的に御利用者様の現状を報告、相談、処置をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医師の説明を聞き、必要に応じて介護計画の変更を行い、面会時の支援もこまめに行なう事で、関係を作るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様、主治医、看護師とホームで話し合いの場を設け、それぞれの方針を話し合い、最善のケアが行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対策マニュアルに沿ってホーム内カンファレンスを実施し、全員が落ち着いて対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実践しており、消防署の方の協力の下、避難の指導を受け取り組んでいる。日中想定と夜間想定で各1回ずつ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格を見極め、子供扱いや友達扱いのような言葉かけをしすぎないように敬語で対応する事を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご飯や服の洗濯、入浴等のこだわりに沿って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・入浴・買い物全てにおいて臨機応変に希望に沿って対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や柄を重視し、同じ服装が続かないように気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを尊重し、調理指示書に基づいて、栄養バランスを考慮した上で、個々の味付けや固さ等の調整を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理に沿って食事を作ることで、栄養が偏らないよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の思いを尊重し、状態を把握する事で、時間帯に誤差は生じるが、本人の意思を尊重したケアをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員尿意がある為、歩行時・立ち上がり時の転倒に気を付けながら、トイレにて排泄して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としているラジオ体操、廊下の歩行訓練等でお腹の動きをよくし、水分不足の方にはゼリー等で対応する等の努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のタイミングを尊重し、入浴への抵抗がある場合は、足浴や清拭で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の入浴や足浴を行う事で安心して睡眠をとって頂けるように取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を随時チェックし、用法の理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある役割を行って頂く事で、強制をしないで、自分のペースで行っていただくように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の花や畑の水やりを行ったり、希望者には行きたい場所をお聞きし、週に1度の外出に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員にはお金の管理の重要性を教え、ご利用者様の希望に応じてお金の所持、使用を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方にはやり取りできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に好きな人物や写真・季節の花などを取り入れている。また、場所の把握が出来るように各場所の目印を取り付ける事で、自立支援を目指している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を変更する事で、同じ空間の中でも、苦痛に感じないよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、馴染みのタンスや好みの道具、作品を飾る事で、不安の軽減が出来る環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身のタイミングで動ける事、転倒のリスクを軽減できるよう、同線が多くある環境作りを心掛けている。		